

広野 功

2度の「逆転満塁サヨナラ本塁打」関係資料

野球殿堂博物館では、広野 功氏より、プロ野球史上唯一の記録である2度の「逆転満塁サヨナラ本塁打」関係の資料をご寄贈いただいています。

広野氏は慶大から1965年ドラフト3位で中日入団。西鉄、巨人を経て、74年に中日で引退されました。

1度目はルーキーイヤーの1966年8月2日、中日対巨人戦(中日球場)、2点差の9回裏二死満塁(走者は3塁から竹中 惇、中 暁生、高木守道)の状況で、先発の城之内邦雄投手をリリーフした、同じくルーキーの堀内恒夫投手から、逆転満塁サヨナラとなる6号本塁打を放ちました(7-5で中日勝利)。

2度目は、巨人時代の1971年5月20日、対ヤクルト戦(福井県営球場)、2点差の9回裏、無死一、二塁の状況で登板した会田照夫投手から四球と野選で1点を返し、なお無死満塁の場面(走者は3塁から王

貞治、長嶋茂雄、黒江透修)に代打で登場、代打逆転満塁サヨナラ本塁打を放ちました。代打での逆転満塁サヨナラ本塁打は、樋笠一夫選手(巨人)、藤村富美男選手(阪神)に続き、当時プロ野球史上3人目の快挙でした。

満塁サヨナラ本塁打は、2017年シーズン終了時点でセ・リーグ40人(42度)、パ・リーグでは33人(34度)、1リーグ時代に4人(4度)生まれています。1人で2度放ったのは広野氏と、立浪和義選手(中日)、井口資仁選手(ダイエー、ロッテ)の3名いますが、「逆転」の状況で2本放っているのは広野氏だけです。

当博物館では2015年に広野氏から2度目の際のホームランバットをご寄贈

いただき、今夏、1度目の際のホームランバットとホームランボールをご寄贈いただきました。これらの資料は現在、プロ野球の歴史コーナーにて、NPB提供の公式スコア(複製)とともに展示しています。

公益財団法人 野球殿堂博物館
学芸員 関口貴広

広野氏と「逆転満塁サヨナラ本塁打」の展示

